

目的：本研究は、高齢社会の家庭生活と生活環境について、現況のきめ細かい把握と実態に即した対応を考へていくために、地理的条件や産業構造によって種々に異なる高齢化の地区特性に着目して、65歳以上の高齢者および20～64歳の成人の中広い年代層を対象に調査研究を行ったものである。

方法：宮崎県内の1市3町2村（高齢化率9.0～20.1%）より8調査対象地（第1報において特性を報告）を選定し、無作為抽出した1704名を対象に、質問紙を用いた留置式調査法で調査を実施した。有効回収票高齢者614、成人633である。

結果：本報では生活行動と生活環境についての調査結果を高齢者を中心に報告する。日常の生活行動の状況をみると、全般に山村の2地区の高齢者がよく活動しており、特に最も高齢化率の高い北郷村で住生活行動や地域活動が活発である。性×年齢別では、家事的生活行動で性差が大きく女性が中心に活動している。しかし、加齢に伴う行動率の低下は全般に女性に著しく、男性の方が持続性は高い。成人の生活行動も地区別・性別では高齢者とおおよそ同様の傾向がみられる。つぎに生活環境について高齢者の住宅事情からみると、戸建持家が90.4%と高率で住宅満足度も比較的高く、いずれも農山漁村部の5地区でその度合が強い。住宅問題では都市部で狭さ、山村部で古さや水まわりの不備等が多くなり、環境問題では都市部で安全性、山村部で利便性、近郊農村部で教育の問題があかっている。高齢者専用住宅への入居希望は都市部と山村部で高い。成人の住宅評価および環境評価は高齢者よりも厳しく、高齢者専用住宅への入居希望は高い。